

# 日本共産党埼玉県議団ほっとNEWS

NO. 51

2012年3月15日 日本共産党埼玉県議団

電話 048-824-3413

## 「子どもたちは静かな環境で療養を」 県立小児医療センターで知事を質す。

### 「入院患者は外に出ない」知事の答弁

3月16日予算特別委員会で、柳下礼子県議はセンター問題で再び知事質問に立ちました。柳下県議はセンターで亡くなった甥ごさんを持つ方からいただいた手紙を読み上げ「新都心は患者にとってふさわしい療育環境とはいえない」と迫りました。これに対して知事は「患者は感染症の予防のため外出は許されないと答えました。柳下県議は「外に出さないのだから静かな環境よりビルの方がふさわしいというのか」と知事に迫り、知事は「決してそういうつもりではありません」と答えざるを得ませんでした。

### 中庭でホタルを飼っていた同センター

柳下県議は、今のセンターは子どもたちのために中庭でホタルを飼っていた、と指摘。知事は「総合的に判断した。」と従来の答弁を繰り返しました。また「都心には、屋上庭園がある病院がある」といいわけをしました。

(全文はHPにアップしました)

### 白岡町で「考える会」結成

3月11日には白岡町で「県立小児医療センター問題を考える白岡の会」が結成されました。会は短時間で2500を超える署名を集めました。白岡の中丸町議会議員が議会でこの問題を取り上げたところ、保守系のある議員が「これは俺の課題だ」といって、署名集めに協力してくれました。

## 患者会38400筆の 署名提出

3月15日県立小児医療センターの存続を求める患者家族の会は、同センターの現所在地もしくは周辺地域での存続を求める署名を埼玉県に提出し、病院局経営管理課長が受け取りました。

### 各地から集まる署名の数々

署名提出式には患者家族だけでなく、蓮田市や春日部市、伊奈町、上尾市、白岡市などから、中にはテレビをみて移転を知り今日たどり着いたという家族も含めて、28人が参加しました。

会の2時間前から各地の様々な団体から署名が続々と届けられ、最終的に署名は38400筆となり、前回の分と併せて53402筆が提出されました。

### 県は「これから検討」ばかり

「2月11日の患者説明会以降具体的に変わったことは？」との患者会代表者の質問に対して、病院局は「予算が採択されたら、適当な時期に具体化する」などと回答。要望されていた渋滞調査も、未だ実施しておらず、患者会が不信感を表明する場面もありました。

### テレビで知ったという家族も参加

4日のテレビでセンター移転を知り、駆けつけたという家族は「県は患者一人一人に説明する必要がある。また新都心駅は大変な人混みだ。駅からセンターに通う患者はどうなるのか？」と県側を問いました。